



【学校教育目標】社会や人との関わりの中で 真の逞しさを身につけた 児童生徒の育成

泉だより

No.13

令和 6 年2月1日
京都市立東山泉小中学校
校長 岩田 智典



「生き方探究(キャリア)教育」ゆめづくり～夢創

東山泉では 3 年生から始まる総合的な学習の時間を西学舎では「ゆめづくり」、東学舎では「夢創(むそう)」と銘打ち、探究型学習を行っています。学年ごとに様々なテーマが設けられていますが、そのテーマの一つに「働く」というキーワードがあります。5 年では「働くことに対する自分の思い」、7 年では「生活設計、企業活動、経済、社会の仕組みやそこで生活する人々の思い」、8 年では「実社会で働く人々の姿と働くことに対する自己の将来」と、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことができるキャリア教育を実践しています。今回は 5 年と 7 年の京都まなびの街生き方探究館の体験プログラム、8 年の生き方探究チャレンジ体験の紹介をしたいと思います。

5 年生は 10 月、生き方探究館で、わくわくワークランドの学習に取り組みました。子どもたちは、新入社員として各職場に分かれて、様々な研修を受けました。実際の企業(京都銀行、西利、ローソン等)の方などに詳しく教えてもらったり体験させてもらったりし、「未来の自分」について考えを深める機会になりました。



7 年生は 1 月、同じく生き方探究館で、ジョイJOB LAND^{ジョブ ランド}の学習に取り組みしました。まず、企業(大阪ガス、関西電力、三井不動産等)の講師の方から企業理念、仕事内容を聞いたあとジョブミッション(業務課題)の提示を受けます。そしてグループでその課題に対し取組内容を発表するという学習です。将来、仕事に就くために必要な力は何か、それを実践するための姿勢について学ぶ機会になりました。

そして 8 年生は 1 月の4日間、地域を含めた事業所に赴き、実際の仕事を体験させていただきました。東山区役所、消防署、三洋化成、郵便局など様々な職種に分かれ体験をしてきました。この間は家から直接事業所に直行し帰宅するというスタイルです。すべて自分の責任において仕事を全うしなければなりません。8 年生は今まで学んできた「働く」ということを実体験し、またさらに「将来の自分」を意識したのではないのでしょうか。



※探究型学習とは

探究型学習とは、課題の設定→情報の収集→整理→分析→考察→まとめ・表現という学習のサイクルです(図参照)。これは総合的な学習の時間のみならず、各教科においても単元によってこのような学習を行っています。

